

経営比較分析表（平成29年度決算）

静岡県 御殿場市

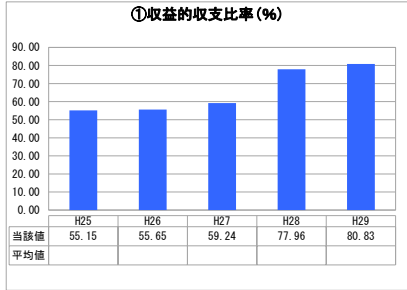
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	36.01	86.64	2,160

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
89,073	194.90	457.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
31,869	6.05	5,267.60

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



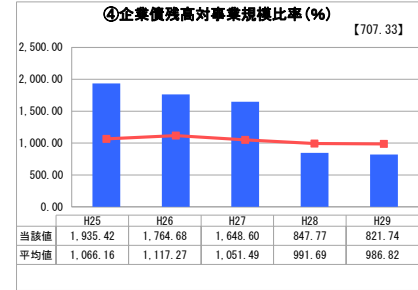
「単年度の収支」



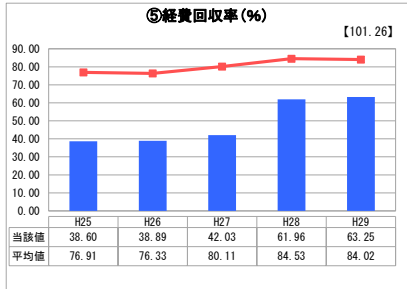
「累積欠損」



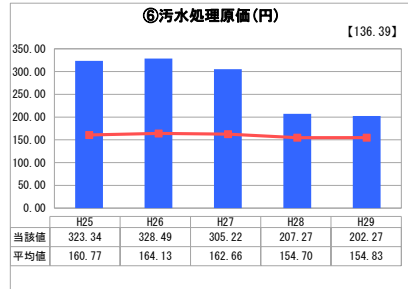
「支払能力」



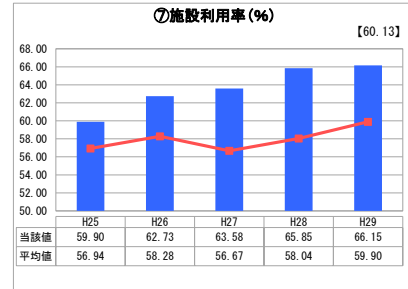
「債務残高」



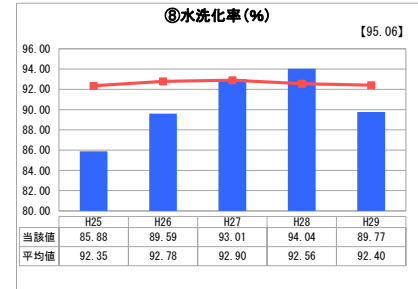
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

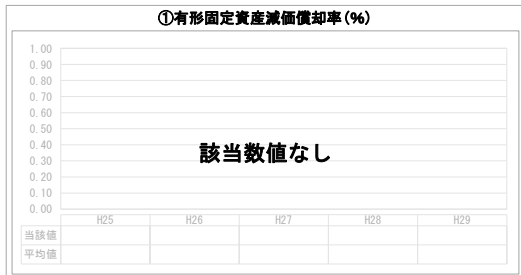


「施設の効率性」

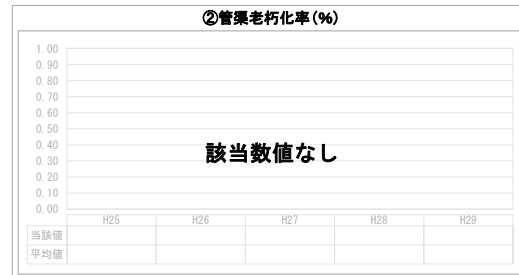


「使用料対象の捕捉」

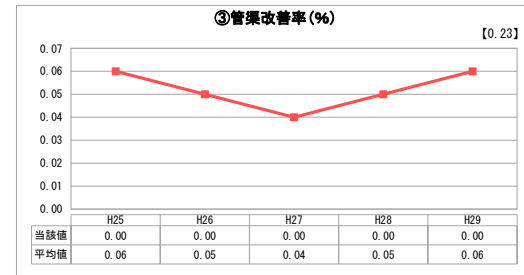
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

⑤経費回収率は、全国平均や類似団体平均と比較して低位に止まっており、要因の1つとして⑥汚水処理原価の高騰が挙げられる。これは事業開始当初（昭和63年～）に借入を行った企業債の償還がピークを迎えているためであり、今後は改善が見込まれる。

また、1世帯あたりの人口を実態に合わせる等の見直しを行ったことにより⑧水洗化率の数値が下がっているものの、管渠整備の進捗により、実質的な接続人口は増加していると考えられる。このため徐々にではあるが⑦施設利用率の数値が上昇し、①収益的収支比率や⑤経費回収率にも若干の改善傾向が見られる。

2. 老朽化の状況について

管渠施設は、ストックマネジメント計画に基づき点検・調査を進めているが、供用開始からの年数が最大で30年程度ということもあり、現時点で大規模な修繕・改築等は必要とされていない。

終末処理場についても、長寿命計画に基づく改築から、点検・調査計画も含めたストックマネジメント計画へと移行することで、より計画的な管理を進めていく予定である。

全体総括

平成31年度に使用料の改定を予定しており、経営状態の改善が期待できる。また、平成31年4月からは地方公営企業法の適用も控えており、経営状態の透明化も同時に図られるものと考えている。

これらにより得られた指標等を参考としながら、併せて既存ストックの修繕・改築等の計画を検討することで、引き続き中長期的に持続可能な経営を目指していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。